

アフターコロナにおける司書課程の教材作成

図書館学教育研究グループ
岡田 大輔, 川原 亜希世, 高池 宣彦

1. はじめに 資料・素材の共有の必要性

多くの大学教員は、教科書以外にスライドや配布プリントを用いて授業を行っている。これらを作成するには画像などの素材が必要となる。DVDなどの映像を見せることもある。合わせて、新聞記事などの資料を印刷し配布することも行われてきた。コロナ禍以降、当研究グループは授業の方法の情報交換を行ってきた。2020年の4月の時点では、プリント教材による授業を求めた大学は多かった。学生が教科書を入手できていないことも多く、各教員は以前からの手持ちの教材をより充実することに迫られた。その後、オンライン授業や映像によるオンデマンド授業が開始され、スライドを用いることができるようになったとともに、昨年の報告(1)で述べたように、SARTRASによる授業目的公衆送信補償金制度の開始により、多くの資料・素材は遠隔授業でも用いることができるようになった。ただ、実物やDVDは見せづらいつといった問題は残っている。

そして、今後コロナが収束したとしても、学生の理解がはかどる教材をより容易に作成する方法の共有が求められるが、共有はあまりなされていないのが現状であろう。もちろん、資料・素材の選択は授業の方法と密接に関わっており、各教員の腕の見せどころではある。教員が授業を組み立てることは教員を成長させるだろう。各教員のさまざまな蓄積を尊重することも必要である。しかし、各教員が教材を必要以上に作り込む必要はなく、授業の展開の方法など、各教員が考えるべきことは他にもあると考えられる。

今年度(2021年度)、当研究グループは授業で活用できる資料・素材の入手・選択方法を主に検討してきた。共有の方法として、大きく2つのアプローチが検討された。

1つは、各教員が手持ちの資料・素材を紹介し共有するアプローチである。まず、「図書館概論」に関する資料・素材を共有することにし、授業で用いている新聞記事のリストや、Wikimediaにある画像などが紹介された。「1) 図書館の現状と動向」「2) 図書館の構成要素と機能」・・・といった「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目一覧」(2)の項目ごとに整理することが検討された。このアプローチの先には、資料・素材のデータベースの構築がある。様々な人が投稿できるようにしたり、新たな素材を作ることも含まれるだろう。

ただ、このアプローチは中断されている。有用な資料・素材は膨大である割に、すぐに陳腐化し質の維持が難しいと考えられたからである。

2. 目的 各教員が有用な資料・素材を選択できるように

もう1つは、各教員が有用な資料・素材を選択できるようにするアプローチである。データベースの構築が難しいとすれば、各教員が様々な資料・素材の中から有用なものを選び出せる必要がある。ただ、筆者の1人である岡田が資料・素材を紹介する中で、「授業で明治期の版木を江戸期の木版として紹介してしまった」失敗が見つかったことがある。司書・司書教諭課程の教員は必ずしも自分の専門ではない授業を担当することは多く、教員の専門性にのみ依存できないことがあらためて分かった。

本発表は、司書・司書教諭課程の教員がよりよい資料・素材を選ぶ方法、チェックリストを作成することを目的とする。

3. 方法

様々な図書館情報学に関する情報の判断の基準に、例会で挙げられた大学の授業を進める上で必要なことを加えることでチェックリストを作成した。

3.1 一般的な情報の判断の基準

「大学教員の教材の選定基準」といったものは見当たらない。ただ、大学生向けには様々な情報の判断の基準が提案されている。

3.1.1 The nine questions

初期のものとして、1988年のEngeldinger(3)によるThe nine questionsがある。

1. Who is the author? (著者は誰か?)
2. What is the purpose for writing the article or doing the research?
(書かれた目的は何か?)
3. To what audience is the author writing?
(どのような読者に向けて書かれているのか?)
4. Does the author have a bias or make assumptions upon which the rationale of the publication or the research rests? (著者にバイアスはないか?)
5. What method of obtaining data or conducting research was employed by the author? (どのような方法でデータを取得したか?)
6. At what conclusions does the author arrive?
(著者はどのような結論に達したのか?)
7. Does the author satisfactorily justify the conclusions from the research or experience? (著者は結論を十分に正当化しているか?)
8. How does this study compare with similar studies?
(類似の研究と比較してどうなのか?)
9. Are there significant attachments or appendixes such as charts, maps, bibliographies, photos, documents, tests, or questionnaires?
(アンケートなどの重要な添付資料・素材や付録はついているか?)

(訳は高池による)

The nine questionsは学術文献を判断することが目的とされている。

3.1.2 CRAAP

2004年に提案されたCRAAP(4)では、5項目ごとに4~6つのチェックリストがあげられ、1枚の紙にまとめられている。以下に項目と要約したチェックリストを上げる。

- Currency (有効期間)
作成日・更新日・自分のテーマには最新情報が必要か・webページのリンクはつながるか
- Relevance (関連性)
自分の求めるテーマに関係しているか・対象読者・知りたいレベルに合っているか・他の情報源も見たか・論文でこれを引用しても大丈夫か
- Authority (権威)
著者や出版社やスポンサーは誰か・著者の資格や所属は・著者はそれを書く資格があるか・出版社やメールアドレスなどの連絡先があるか・.com .edu .gov などURLから何か分かるか
- Accuracy (正確さ)
情報源・エビデンスはあるか・査読の有無・他の情報源で確認可能か・言葉やトーンな感情がこもっていないか・スペルミス、文法ミス、誤字脱字はないか

- Purpose (目的)
教育目的か販売のためか娯楽のためかの制作された目的・目的が示されているか・事実か意見かプロパガンダか・客観的か・政治的宗教的なバイアスがかかっていないか

(訳と要約は岡田による)

CRAAP は web ページも含めた、より広い範囲の情報を対象にしていることが読み取れる。

3.1.3 その他の判断基準

RADAR(5)も“Rationale (根拠) / Authority (権威) / Date (日付) / Accuracy (正確さ) / Relevance (関連性)”と共通点が多い。しかし、チェックリストには、ただ出版社名を見るだけでなく「出版社の評判」を確認したり、「画像がPhotoshopで加工されていないか、TinEyeのような画像検索で確認する」などCRAAPに比べるとすべきことが具体的に示されている。

日本においても、日本図書館協会が作成した大学生向けの映像教材(6)においては、「誰が書いているか / どこから出版・公開されているか / 客観的に書かれているか / いつ作られたものか / どんな情報をもとに書かれているか」のほぼ同様な5項目が提案されている。

また、IFLAによるフェイクニュースを見極める方法(7)として、「情報源を検討しよう / 本文を読もう / 著者をチェックしよう / 情報源は裏付けか? / 日付をチェックしよう / これってジョーク? / 自分のバイアスをチェック / 専門家に尋ねよう(井上靖代訳)」が提案されている。情報源のバイアスではなく、自らのバイアスを問うと明記されている部分は注目される。

3.2 資料・素材の場合の疑問

これらは、対象に対して知識が不足している学生が情報を選択する際には有用であろう。しかし、資料・素材を選択する際にはやや異なる判断基準が必要であると考えられる。

例えば、図書館を紹介するため図書館の外観の写真を用いる場合、情報の信頼度を確保するためには誰が撮影したかはそれほど重要ではない。図書館情報技術論などで図書館用品を紹介する際には、販売業者が販売促進のために制作した資料・素材、つまりバイアスがかかった資料・素材を用いることはありうる。クリティカルに読解させるため、誤った内容の資料・素材を提示することもあるだろう。そして、一般的な情報の判断の基準に加えて、著作権的な問題を解決することが求められる。

4. 結果

以下のチェックリスト(表1)が得られた。

表1 資料・素材のチェックリスト(案)

授業との関係性

- ・ 授業で教えたい内容は明確か
- ・ 自分にバイアスがかかっていないか
- ・ 資料・素材は教えたいことに合っているか、本当に使う必要があるか
- ・ 正しいものとして見せるのか、クリティカルに見せるのか
- ・ 他の資料・素材と見比べたか
- ・ 資料・素材は授業や学生のレベルに合っているか

日付

- ・ 作成日・公開日・更新日を確認
- ・ 改訂・更新されていないか
- ・ 最新の情報が必要か、意図的に古いものを見せるのか
- ・ 翌年度以降も継続して使用できるか

信頼性

- ・ 作者が重要な場合、作者の経歴・専門性・業績を確認
- ・ 掲載元は信頼できる出版社・web サイトか
- ・ どのような意図を持って作られているか
- ・ 商品の広告として作成されているか
- ・ 一般人向けに作られているか、研究者向けか
- ・ 判断に困ったら他の研究者に聞くこともできる

著作権

- ・ パブリックドメインかどうか
- ・ 改変可能な資料・素材か
- ・ 授業で配布可能な資料・素材か
- ・ 引用の条件を満たすなどして、授業外でも使用可能か

正確性

- ・ 自分が資料・素材を正確に理解しているか
- ・ 文章はおかしくないか
- ・ 恣意的に加工された画像・動画でないか
- ・ 引用文献は正しく引用されているか
- ・ 論の進め方や実験の手法は正当か
- ・ 査読を受けたり、他の人の目を経たりしているか
- ・ 内容は他の資料・素材や自分の知識と比べておかしくないか

5. 結論

このチェックリストは作成したばかりであり、まだ実際の教材の作成では使われていない。したがって、有用性等の検証は行えていない。今後のさらなる検討・修正が必要である。

6. 今後の課題

まず、実用性の観点から、実際にチェックすることが困難な項目がある。さらにこのチェックリストでは媒体別にはなっていないため、その点についても今後の検討が必要である。

今後の大学生は電子教科書等の充実した教材で育ってくると考えられ、司書・司書教諭課程の教員もより教材を充実させ続ける必要があると考えられる。そのためには、教員1人が教材を完成させるのは難しく、情報の共有が必要であろう。

注

- 1) 川原亜希世, 岡田大輔「司書課程における遠隔授業とその影響について- (第62回研究大会グループ研究発表)」『図書館界』73(2), 2021.7, p.99-105.
- 2) これからの図書館の在り方検討協力者会議「別添2 司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目一覧 [13科目 24単位]」, 2009. <http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2009/05/13/1266312_8.pdf>. [引用日: 2022-02-20]

- 3) Eugene Engeldinger, “Bibliographic Instruction and Critical Thinking: The Contribution of the Annotated Bibliography,” *RQ*. 28(2), 1988, p.195-202.
- 4) Sarah Blakeslee, “The CRAAP test,” *LOEX Quarterly*. 31(3), 2004, p.6-7.
- 5) Jane Mandalios, “RADAR: An approach for helping students evaluate Internet sources,” *Journal of Information Science*. 39(4), 2013, p.470-478.
- 6) 日本図書館協会, 仁上幸治, 野末俊比古「ゼミ発表をしよう! : テーマ選びからプレゼンテーションまで」紀伊國屋書店, 2007. (情報の達人; 第2巻)
- 7) IFLA, 井上靖代訳「偽ニュースを見極めるには」 2019. <https://www.ifla.org/wp-content/uploads/2019/05/assets/hq/topics/info-society/images/how_to_spot_fake_news_-_japanese.pdf>. [引用日: 2022-02-20]